

日本救急医療財団の活動報告

平 賢 二 事務局長

2019年10月中旬から2019年12月上旬までの財団の活動について報告します。

総務部門に関する報告

仁平 正行 総務部

1. 第1回救急救命処置検討委員会検討部会開催について

令和元年10月28日(月)10時00分よりTKPガーデンシティ品川において令和元年度「第1回救急救命処置検討委員会検討部会」を開催いたしました。第1回の主な議題は、(1)これまでの振り返りと今後の進め方について、(2)各提案に対する評価と振り分けについて、①特定行為(三処置)(※気管内チューブを除く)の包括指示化について、②アナフィラキシーに対する、自己注射が可能なアドレナリン製剤とアドレナリン注射液の筋肉内投与について、③事故抜去事例に対する気管切開チューブの再挿入について、④外傷による出血性ショックに対するトラネキサム酸の静脈内投与について、⑤急性冠症候群等に対する心電計の使用による12誘導心電図の測定と伝送について、(3)その他として、1)秘密保持誓約書と利益相反自己申告書について、2)厚生労働省への報告についてとして開催されました。

坂本救急救命処置検討委員会委員長にオブザーバーとしてご出席いただき、部会委員からの事前の下調べ内容を含め、①～⑤までの5案件について内容の再確認、及び「救急救命処置の追加、除外等に関する提案に対する評価結果報告書(案)」の内容を検討し、修正・追加等についての確認作業等の分担を行い、次回開催の第2回検討部会において更に検討することとした。

2. 第2回救急救命処置検討委員会検討部会開催について

令和元年11月25日(月)13時00分よりTKPガーデンシティ品川において令和元年度「第2回救急救命処置検討委員会検討部会」を開催いたしました。第2回の主な議題は、(1)報告書(案)について、①特定行為(三処置)(※気管内チューブを除く)の包括指示化について、②アナフィラキシーに対する、自己注射が可能なアドレナリン製剤とアドレナリン注射液の筋肉内投与について、③事故抜去事例に対する気管切開チューブの再挿入について、④外傷による出血性ショックに対するトラネキサム酸の静脈内投与について、⑤急性冠症候群等に対する心電計の使用による12誘導心電図の測定と伝送について、部会長より指示のあった事前の調査報告事項を含めて報告書案について検討した。(2)その他として第2回部会で新たに依頼している事項等は部会員の方とメールのやり取りの中で報告を貰い、委員会提出資料等は部会長から坂本委員会委員長に相談し纏めていくこととした。第3回検討部会を早急に日程調整し1月に開催予定とした。

研修研究部門に関する報告

風間 和則 研修研究部

1. 病院前医療体制における指導医等研修（初級者）について

令和元年11月7日（木）から11月8日（金）までの2日間、東京都港区リロの会議室田町会場において、病院前医療体制における指導医等研修（初級者）を開催しました。

受講対象は、3年以上の救急臨床歴があり、①これからMCを始める医師、②現在も救急隊員への指導・助言を行っており、オンラインでも指示をしている医師、③救急救命士・救急隊員の病院実習に関して院内コーディネーター役となる医師、④二次救急医療機関において救急医療を担当している医師であり、全国から59名（修了者57名）の受講者が参加されました。

研修の内容は、「救急医療とメディカルコントロール」、「救急業務の担い手と医師の業務」、「メディカルコントロールに関わる組織と法的根拠」、「メディカルコントロールの現状と課題」、「オンラインで行う指示、指導・助言」の講義・ワークショップ、「医師が出動する医療でのMC」、「プロトコルの読み方・使い方」の講義・ワークショップ、「検証とフィードバック」の講義・ワークショップ、「病院実習における教育」の講義・ワークショップを行い、ワークショップでは活発な意見交換と受講生相互間での連帯感が深められ、また、研修の最後には講義内容等の理解・復習を目的としてテストを行うなど大変有意義な研修会となりました。

2. 保健師等救急蘇生法指導者講習会について

令和元年11月7日（木）から11月8日（金）までの2日間、東京都港区リロの会議室田町会場において、保健師等救急蘇生法指導者講習会を開催しました。

本講習会は、保健所等の行政機関又は公共機関に勤務する保健師等を対象とし、地域における救急蘇生法等（乳児・小児の応急手当等を含む）に関する普及方策等の企画・運営を行う者の養成を図ることを目的に全国から21名の受講者が参加されました。

講習会の内容は、「地域包括ケアシステムと救急医療」、「心肺停止事象が公衆衛生に及ぼす影響と救命の連鎖」、「事故予防（総論）、（各論）」、「乳児に対する心肺蘇生法指導ツールと実習」、「学校保健と救急蘇生法指導」、「母子保健と救急蘇生法指導（心停止予防・事故防止を含む）」のワークショップ、「在宅医療介護サービスを受けている市民や施設入所者の急性疾患や急変に対する保健師等の役割」のワークショップ、「災害医療における保健所の役割」、「災害コーディネーターとの連携における保健師等の役割」のワークショップを行い、ワークショップにおいては、活発な意見交換と受講生自身による体験により受講者の相互間での連帯感が深められ大変有意義な講習会となりました。

3. 救急救命士業務実地修練について

令和元年11月25日（月）から11月29日（金）までの5日間、東京都港区リロの会議室田町会場において、救急救命士業務実地修練を開催しました。

受講対象は、①救命救急センター又はそれと同等の施設において、救急部門、集中治療室（ICU等）などで現に救急業務に従事している者であって、救急救命士免許を取得している者、②消防機関等において、現に救急救命士として救急業務に従事している者であり、全国から55名の受講者が参加されました。

研修内容は、「救急救命士制度の将来像」の講義・ワークショップ、「心肺停止前の特定行為について」の講義・ワークショップ、「症状・徴候 観察のコツ」の講義・ワークショップ、「緊急度判定の理論と実践」のワークショップ、「現場活動のシミュレーションと教育技法の取得」の各講義、「精神科的問題を持つ傷病者へのアプローチ」のワークショップ、「MCにかかる諸業務の管理・運営」のワークショップ、「安全な救急業務管理（危機管理）」のワークショップ、また、同日開催された病院前医療体制における指導医等研修（上級者）受講者と合同で「通信指令業務」、「通信指令業務の事後検証について」の講義・ワークショップ、「局地災害における消防活動」、「局地災害時のMCに関する問題の理解」の講義・ワークショップを行いました。

ワークショップにおいては、活発な意見交換と受講者自身による体験を通して受講者相互間での連帯感が深められ、特に病院前医療体制における指導医等研修（上級者）受講者と合同で行われた講義・ワークショップでは救急救命士と医師による活発な意見交換がなされ、大変有意義な研修会となりました。

4. 病院前医療体制における指導医等研修(上級者)について

令和元年11月27日（水）から11月29日（金）までの3日間、東京都港区リロの会議室田町会場において病院前医療体制における指導医等研修（上級者）を開催しました。

受講対象は、5年以上の救急臨床歴があり、①救急科専門医やそれと同等の資格を有する医師、②2年以上の地域メディカルコントロール担当医として経験を積んだ医師、③地域においてBLS、ACLS、JPTEC、JATECなどの講習会や救急隊教育において指導歴がある医師であり、全国から50名の受講者が参加されました。

研修内容は、「輸送と明入れ実施基準と緊急度判定」、「救急医療体制にかかる調整」、「再教育システムの構築」、「救急医療体制にかかる調整」の各ワークショップ、「救急救命士等に対する教育」の講義ワークショップ、「我が国の救急医療体制と病院前医療体制」、「救急に関する消防の取り組み」の講義、「MC及び指導医の今後の展開」のワークショップを行い、また、同日開催された救急救命士業務実地修練受講者と合同で「通信指令業務」、「通信指令業務の事後検証について」の講義・ワークショップ、「局地災害における消防活動」、「局地災害時のMCに関する問題の理解」の講義・ワークショップを行いました。

ワークショップにおいては、各地域での情報交換、意見交換がなされ、特に救急救命士業務実地修練受講者と合同で行われた講義・ワークショップでは医師と救急救命士による活発な意見交換がなされ、大変有意義な研修会となりました。